

地域ワークショップの進捗状況について

公民館地区 (WS地区)	日 程	進 捗 状 況
東部 (寒河江)	第1回 7月26日	各参加者が地域の課題を小さいカードに書きながら発言していき、最終的にカードをテーマごとに模造紙に貼付し課題を整理、それをもとに議論を進めている。(1班10人程度の2班構成)
	第2回 8月27日	【寒河江地区テーマの例】 中心街が過疎化している。人通りも少ない。駅前に集客施設が必要。 さくらんぼのPRが天童、東根に負けている。PRする努力がちぐはぐ。 高齢化が進み、老人だけの世帯が増加している。地域とのかかわりが必要だが、個人情報の問題もあり、難しい。 どの世代でも人づくりに関わる施策の確立と教育の向上が必要。
	第3回 9月16日	
東部 (西根)	第1回 8月4日	「福祉・文化」、「自治・安全」、「産業・環境・交流」のテーマ別に、各班において、自由に議論し、話し合いの中から課題を整理し、解決策についての話し合いへと進めている。(各地区1班10人程度の3班構成)
	第2回 8月25日	【西根地区テーマの例】 高齢化が目立つ。高齢者の一人世帯、老夫婦世帯が増えている。地域のかかわりが必要。 40代以上の独身が多い。どうしたら結婚に結びつくか、市でも力を入れるべき。 平成20年にほなみ団地が完成した。新しい住民との融和が大きな課題。 日田は、駅前まで距離があるが、バスの利便性が悪い。一人暮らしの老人や母子家庭は、病院までタクシーを利用している。
	第3回 9月8日	
東部 (三泉)	第1回 7月28日	【三泉地区テーマの例】 さくらんぼ全国一は、東根へ移行した。各種PRが不足している。 農業後継者不足。従事者は年配者が多く、対策必要。 地域に若い人が魅力を感じられるものがなく、若い人が残らない。 地域で世代交流、隣近所のつきあいが無い。
	第2回 8月10日	
	第3回 9月2日	

公民館地区 (WS地区)	日 程	進 捗 状 況
西部 (高松)	第1回 7月2日	参加者が提出する「地域の現状と課題の発見シート」を元に、「地域の課題の整理表」を作成。整理表を元に、問題点を掘り下げ、課題の解決策、改善策の議論を進めている。
	第2回 7月22日	【高松地区テーマの例】(1班8人の2班構成) 少子高齢化が目立つ。婚活支援と地域の福祉環境を良くする地域のわ(和・輪)づくりが必要。
	第3回 8月18日	伝統芸能の伝承と高松堰など高松の財産・歴史を伝える取組みが必要。 慈恩寺山門をイメージとしたJR高松駅新駅舎が完成した。慈恩寺観光の拠点・玄関口となるような案内板設置や景観づくりが必要。
西部 (醍醐)	第1回 7月2日	【醍醐地区テーマの例】(1班10人～15人の2班構成) 少子化が目立つ。子育て世代の呼び込み、婚活支援が必要。
	第2回 8月4日	慈恩寺を活かした景観形成や名物・特産品(養蜂や竹の子)の開発、土産物屋の出店が必要。 伝統芸能(「日和田田植踊り」や「おひやらどんがの花太鼓」)の後継者育成が必要。
	第3回 9月8日	醍醐小学校、旧慈恩寺分館跡地の有効活用を考えるべき。
西部 (白岩)	第1回 7月2日	【白岩地区テーマの例】(20人程度の全体で話し合い) 少子高齢化が進んでいる。児童遊園地を整備しても、利用者が少ない。高齢者の一人世帯、老夫婦世帯が増えている。地域の交流が必要。
	第2回 8月4日	白岩城など白岩の歴史遺産の調査研究、保存整備、普及活動が必要。子どもと一緒に地域を探訪したり、白岩の歴史を語る塾を開催してはどうか。
	第3回 8月23日	古戦場の案内や種蒔桜の看板等観光標識を整備するとともに、広くPRすべき。

公民館地区 (WS地区)	日 程	進 捗 状 況
南部	第1回 7月12日	「南部地域全体の現状と課題」、「課題の解決策・南部地域の将来像について」自由に議論し、話し合いの中から課題を整理し、解決策についての話し合いへと進行している。(1班8人程度の3班構成)
	第2回 7月28日	【南部地区テーマの例】 少子高齢化が急速に進んでいるが、同時に地域のつながり、大人と子どものつながりがなくなっている。 地域にスーパーがなくなり、特に高齢者には買い物が不便になった。 農業の後継者不足で、農家が激減しており、耕作放棄地が増えている。 観光農園が多い地域だが、駐車場やトイレが未整備のところが多い。
	第3回 8月25日	
柴橋	第1回 7月14日	柴橋地区においては、産業 環境 福祉の3部会で1部会8~16人程度の3部会構成。それぞれの部会において、参加者が地域の課題を発言していき、整理し、それをもとに議論を進めている。
	第2回 8月4日	人口減少が目立つ。農振除外をして、土地開発が必要。 農地の放棄地が増加。農地の貸し手はあるが、借り手がいない状況。 高速道路の無料化に伴い、スマートエリアからの車(お客)が増大している。西村山全体の観光拠点を点ではなく線として考え、観光情報を提供するべき。また、柴橋においても体験農業なども考えるべき。
	第3回 9月2日	柴橋には各地区に由緒あるお寺と神社がある。住民にもっと身近に知ってもらう為に、マップ等を作成し、歴史散策ウォーキングなどをして、住民がより身近な文化について学ぶ必要がある。